

千葉県 の 商 圏

平成 24 年度 消費者購買動向調査報告書

《 概要版 》

平成 2 5 年 3 月

千葉県商工労働部

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県を取り巻く商業環境は、大型商業施設の県内各地への進出や消費者ニーズの多様化に加えて、人口減少に伴う消費などの需要規模の縮小や高齢化社会の進展などにより、著しく変化している。

こうした状況を踏まえ、本調査では、県内居住者の購買動向の実態を明らかにするとともに、その相互に関連する県内商圈を把握し、今後の地域商業活性化のための基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査内容

県内全域の世帯を対象に消費の流出入状況及び消費者ニーズ、商店街に対する意向等についての買物アンケートを実施する。

(3) 調査対象

- ① 中学校 1、2 年生を持つ世帯（以下、「中学生世帯」という。）
- ② 就学中の子供を持たない 20 歳以上の世帯（以下、「子供のいない世帯」という。）

(4) 調査実施期間

平成 24 年 7 月～9 月

(5) 調査項目

品目別の購買地域・利用店舗、買い物理由、商店街の利用頻度、利用する理由・利用しない理由、商店街に求める役割、大型店の利用状況 等

(6) 回収結果

① 中学生世帯

総回収数 12,859 票（配布総数 21,044 票）

回収率 61.1%（前回調査（H18）：62.2%）

② 子供のいない世帯

総回収数 4,361 票

(7) 調査機関

ア 調査機関 千葉県商工労働部

イ 調査委託先 株式会社ちばぎん総合研究所

ウ 協力機関 千葉県教育庁、各市町村教育委員会、千葉県市長会、千葉県町村会、各市町村、千葉県商工会連合会、（一社）千葉県商工会議所連合会、各商工会、各商工会議所

2 千葉県の主要商圏の概要

(1) 千葉県の主要商圏

千葉県の主要商圏は、以下に示すように 13 の主要商圏（商業中心都市商圏及び準商業中心都市商圏）から形成されている。

13 の主要商圏は、商業中心都市を軸として形成されている千葉、成田、船橋、茂原、館山の 5 地域商圏と、準商業中心都市を軸とする市原、八千代、印西、柏、銚子、旭、東金、木更津の 8 地域商圏からなる。

このほか、独自の商圏を形成する四街道、浦安、松戸、野田の 4 の単独商圏がある。

主要商圏及び単独商圏都市の商圏構成一覧

商業中心都市	市町村	第1次商圏	第2次商圏	第3次商圏	準商業中心都市	市町村	第1次商圏	第2次商圏	第3次商圏
	千葉市	千葉市	習志野市 市原市 四街道市 東金市 大網白里町 九十九里町 茂原市 一宮町 睦沢町 白子町 長柄町 いすみ市 大多喜町 御宿町 袖ヶ浦市	佐倉市 八街市 山武市 横芝光町 長生村 長南町 勝浦市 鴨川市 君津市 富津市			市原市	市原市	長柄町
成田市	成田市 富里市 酒々井町 栄町 神崎町 多古町 芝山町	佐倉市 八街市 印西市 香取市 東庄町 匝瑳市 旭市 山武市 横芝光町	銚子市		八千代市	八千代市	佐倉市	千葉市 船橋市	
船橋市	船橋市	習志野市 市川市 鎌ヶ谷市	八千代市 白井市 浦安市		印西市	印西市 白井市	栄町 我孫子市	佐倉市	
茂原市	茂原市 一宮町 睦沢町 長生村 白子町 長柄町 長南町 いすみ市 大多喜町	勝浦市 御宿町	-		柏市	柏市	流山市 我孫子市	松戸市 野田市	
館山市	館山市 南房総市 鋸南町	鴨川市	-		銚子市	銚子市	東庄町 旭市	-	
					旭市	旭市	東庄町 匝瑳市	-	
					東金市	東金市 山武市 九十九里町	大網白里町	横芝光町 白子町	
					木更津市	木更津市 君津市 袖ヶ浦市	-	鴨川市 富津市	
					単独商圏都市	四街道市	四街道市	-	-
						浦安市	浦安市	-	-
						松戸市	松戸市	-	市川市
						野田市	野田市	-	-

◆商圏の分類について

調査対象品目のうち、衣料品 4 品目（紳士服、婦人服、子供・ベビー服、実用衣料）に対する消費者の購買地をもって代表させ、以下のように定義した。

「第 1 次商圏」 消費需要の 30% 以上を吸引していると目される市町村

「第 2 次商圏」 消費需要の 10% 以上 30% 未満を吸引していると目される市町村

「第 3 次商圏」 消費需要の 5% 以上 10% 未満を吸引していると目される市町村

◆商圏設定の基準について

「商業中心都市」 : ①地元購買率 70% 以上で外部 5 市町村以上からそれぞれ 10% 以上吸引している市町村
②地元購買率 80% 以上で外部 3 市町村以上からそれぞれ 10% 以上吸引している市町村

「準商業中心都市」 : ①地元購買率 60% 以上で外部 2 市町村以上からそれぞれ 10% 以上吸引している市町村

②地元購買率 70% 以上で外部 1 市町村以上からそれぞれ 10% 以上吸引している市町村のうち、商業中心都市を除いた市町村

「単独商圏都市」 : 地元購買率 60% 以上で、外部特定都市への流出率が 20% 未満の市町村

千葉県的主要商圏一覧

市町村		自市の 行政人口	地元 購買率 (注1)	商圏内 市町村数 ※自市町村 を含む	商圏人口 合計 (人) (注2)	吸引人口 合計 (人) (注3)	商圏内 吸引率 (注4)	吸引力 (注5)
商業 中心 都市	千葉市	963,170	83.7%	26	2,410,743	983,082	40.8%	102.1%
	成田市	129,780	88.1%	17	937,210	295,902	31.6%	228.0%
	船橋市	611,848	82.8%	7	1,769,317	660,907	37.4%	108.0%
	茂原市	91,255	73.0%	11	231,623	131,842	56.9%	144.5%
	館山市	48,747	81.9%	4	133,514	85,788	64.3%	176.0%
準 商業 中心 都市	市原市	278,962	72.8%	5	377,758	210,690	55.8%	75.5%
	八千代市	189,698	83.8%	4	1,937,005	301,781	15.6%	159.1%
	印西市	90,175	78.5%	5	478,039	142,827	29.9%	158.4%
	柏市	404,495	86.9%	5	1,340,684	474,186	35.4%	117.2%
	銚子市	67,875	75.5%	3	150,856	63,242	41.9%	93.2%
	旭市	68,178	63.0%	3	122,071	50,542	41.4%	74.1%
	東金市	61,337	77.5%	6	219,654	88,450	40.3%	144.2%
	木更津市	130,418	78.4%	5	361,541	168,423	46.6%	129.1%
単 独 商 圏 都 市 (注6)	四街道市	88,258	68.5%	1	88,258	60,457	68.5%	68.5%
	浦安市	162,964	70.2%	1	162,964	114,401	70.2%	70.2%
	松戸市	481,032	73.7%	2	950,651	378,941	39.9%	78.8%
	野田市	155,597	76.1%	1	155,597	118,409	76.1%	76.1%

(注1) 地元購買率は中心都市消費者が自市町村で購買する割合。

(注2) 商圏人口は第1次～第3次商圏内市町村の行政人口の合計(平成24年7月現在)。

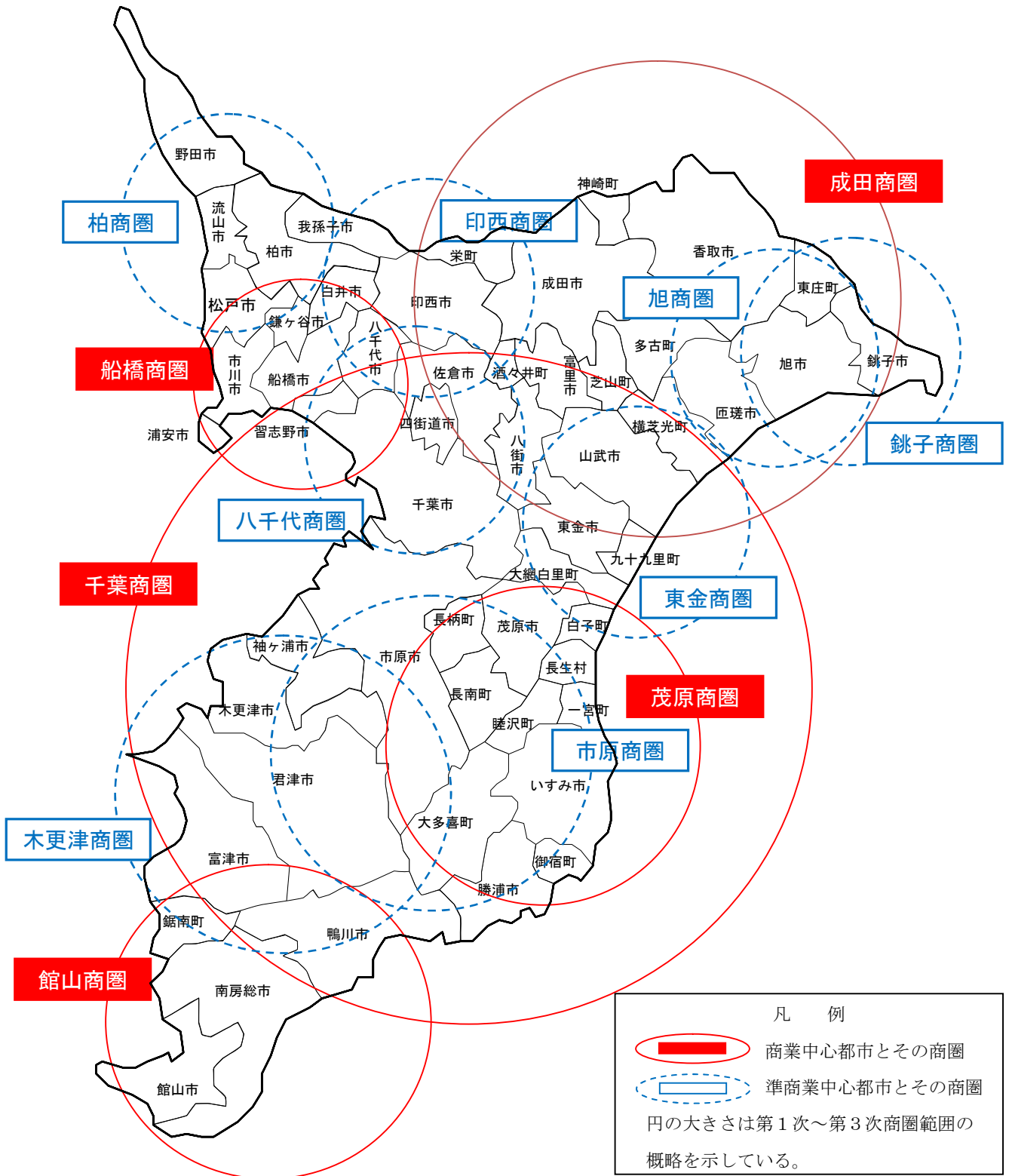
(注3) 吸引人口は「商圏内各市町村の中心都市での購買率×当該市町村の商圏人口」の合計。

(注4) 吸引率は「吸引人口÷商圏人口×100(%)」。

(注5) 吸引力は「各商圏内の吸引人口÷中心都市の行政人口×100(%)」。

(注6) 単独商圏都市の「商圏内市町村数」「商圏人口合計」「吸引人口」「商圏内吸引率」「吸引力」は5%以上吸引(第3次商圏以上)している市町村があった際に算出した参考値。

千葉県の主要商圏の分布



(2) 商圏構造の変化

前回調査と比較すると、商業中心都市は5市で数としては変わらないが、柏市、旭市が準商業中心都市となり、代わって船橋市、館山市が準商業中心都市から商業中心都市になった。

準商業中心都市は、9市から8市へと減少した。鴨川市、匝瑳市が非該当となり、銚子市が単独商圏都市から、柏市、旭市が商業中心都市から準商業都市になった。

単独商圏都市は、7市から4市へと減少した。佐倉市、我孫子市、市川市は非該当となり、銚子市は準商業中心都市になった。これらに代わって、四街道市が新たに単独商圏都市になった。

主要商圏の変化

区分	平成18年 主要商圏	平成24年 主要商圏	区分の 変化
商業中心都市	千葉市	千葉市	→
	成田市	成田市	→
	茂原市	茂原市	→
	柏市	船橋市	↑
	旭市	館山市	↑
	(5市)	(5市)	
準商業中心都市	市原市	市原市	→
	八千代市	八千代市	→
	印西市	印西市	→
	木更津市	木更津市	→
	東金市	東金市	→
	船橋市	銚子市	↑
	館山市	柏市	↓
	鴨川市	旭市	↓
	匝瑳市		
	(9市)	(8市)	
単独商圏都市	浦安市	浦安市	→
	松戸市	松戸市	→
	野田市	野田市	→
	佐倉市	四街道市	(新規)
	我孫子市		
	市川市		
	銚子市		
	(7市)	(4市)	

(3) 市町村別地元購買状況

千葉県全体の地元購買状況をみると、衣料品が50.7%、食料品が78.3%、飲食が55.6%となっている。

市町村別地元購買率（衣料品・食料品・飲食）

順位	衣料品		食料品		飲食	
	市町村	地元購買率	市町村	地元購買率	市町村	地元購買率
	(県平均)	50.7%	(県平均)	78.3%	(県平均)	55.6%
1	成田市	88.1%	館山市	97.8%	成田市	95.2%
2	柏市	86.9%	東金市	95.7%	柏市	93.6%
3	八千代市	83.8%	松戸市	95.2%	館山市	92.6%
4	千葉市	83.7%	鴨川市	93.8%	茂原市	91.7%
5	船橋市	82.8%	千葉市	93.3%	千葉市	91.3%
6	館山市	81.9%	浦安市	93.3%	東金市	90.8%
7	印西市	78.5%	船橋市	93.2%	船橋市	88.7%
8	木更津市	78.4%	茂原市	92.8%	旭市	87.7%
9	東金市	77.5%	柏市	92.4%	木更津市	85.8%
10	野田市	76.1%	野田市	92.1%	松戸市	85.4%
11	銚子市	75.5%	香取市	91.2%	八千代市	85.0%
12	松戸市	73.7%	流山市	90.9%	浦安市	84.0%
13	茂原市	73.0%	市原市	90.8%	銚子市	81.1%
14	市原市	72.8%	成田市	90.5%	野田市	80.5%
15	浦安市	70.2%	木更津市	90.2%	市原市	80.4%
16	四街道市	68.5%	旭市	90.0%	印西市	78.7%
17	旭市	63.0%	四街道市	89.8%	鴨川市	75.6%
18	鎌ヶ谷市	61.6%	八千代市	89.7%	市川市	74.6%
19	習志野市	59.6%	銚子市	89.3%	佐倉市	73.3%
20	流山市	57.5%	佐倉市	85.9%	鎌ヶ谷市	71.5%
21	市川市	56.3%	八街市	85.5%	流山市	65.8%
22	八街市	53.0%	市川市	84.9%	習志野市	56.3%
23	香取市	51.4%	印西市	84.1%	我孫子市	55.0%
24	大網白里町	51.1%	鎌ヶ谷市	83.0%	香取市	54.2%
25	鴨川市	50.2%	大網白里町	82.4%	四街道市	51.8%
26	佐倉市	48.7%	習志野市	82.1%	匝瑳市	50.7%
27	我孫子市	48.2%	横芝光町	81.4%	君津市	47.8%
28	匝瑳市	44.6%	いすみ市	81.1%	八街市	47.0%
29	富津市	44.1%	我孫子市	79.3%	白井市	43.9%
30	君津市	40.4%	多古町	75.3%	大網白里町	37.7%
31	いすみ市	34.0%	白井市	74.3%	いすみ市	36.1%
32	大多喜町	31.7%	袖ヶ浦市	74.3%	富里市	34.4%
33	富里市	28.9%	匝瑳市	74.2%	袖ヶ浦市	32.6%
34	勝浦市	28.1%	富里市	73.5%	勝浦市	31.3%
35	袖ヶ浦市	21.5%	大多喜町	71.2%	横芝光町	28.1%
36	横芝光町	21.4%	酒々井町	70.2%	山武市	25.3%
37	山武市	21.3%	君津市	70.2%	酒々井町	20.5%
38	酒々井町	20.3%	鋸南町	69.9%	富津市	14.2%
39	白井市	18.7%	富津市	67.4%	大多喜町	12.6%
40	一宮町	18.5%	栄町	67.0%	鋸南町	10.5%
41	栄町	17.0%	一宮町	65.1%	多古町	9.8%
42	長生村	11.7%	東庄町	64.9%	一宮町	7.9%
43	多古町	8.8%	山武市	60.5%	御宿町	6.7%
44	九十九里町	2.8%	勝浦市	53.4%	南房総市	5.1%
45	芝山町	2.8%	九十九里町	53.3%	神崎町	4.6%
46	南房総市	2.7%	芝山町	44.8%	九十九里町	2.5%
47	東庄町	2.6%	御宿町	41.1%	東庄町	2.1%
48	鋸南町	2.6%	南房総市	34.2%	栄町	2.0%
49	御宿町	2.3%	白子町	29.4%	睦沢町	2.0%
50	睦沢町	1.0%	睦沢町	28.3%	長生村	1.5%
51	神崎町	0.0%	長生村	25.9%	芝山町	1.2%
52	白子町	0.0%	神崎町	18.5%	白子町	0.9%
53	長柄町	0.0%	長南町	1.8%	長柄町	0.0%
54	長南町	0.0%	長柄町	0.0%	長南町	0.0%

3 アンケート結果

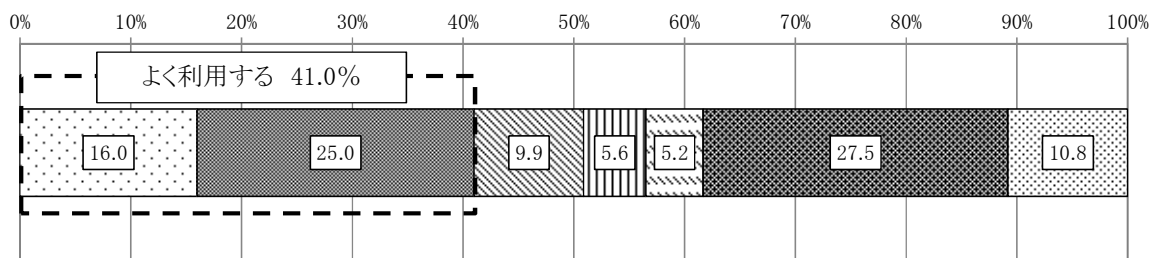
(1) 商店街の利用頻度

ア 全体

中学生世帯の商店街の利用頻度をみると、「よく利用する(「ほとんど毎日」と「週に2～3回」の合計)」は41.0%であった。

一方、「地元市町村内に商店街があるが、ほとんど利用しない」は27.5%で、「地元市町村内には商店街がない(10.8%)」と合わせると、38.3%が商店街を「利用していない」と回答した。

商店街の利用頻度（中学生世帯）



- ほとんど毎日
- 週に2～3回
- ▨ 週に1回くらい
- ▩ 月に2～3回くらい
- 月に1回くらい
- 地元市町村内に商店街があるが、ほとんど利用しない
- ▨ 地元市町村内には商店街がない

イ 年齢別

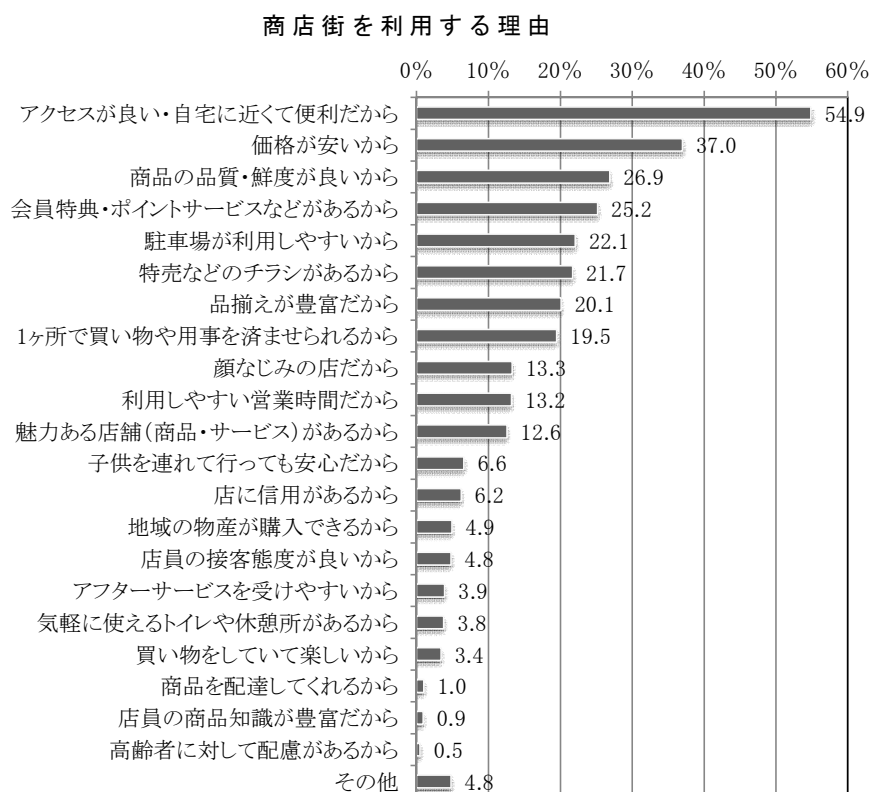
商店街の利用頻度を年齢別にみると、「よく利用する」と回答した割合は、「30歳未満(51.2%)」が最も多く、「60代(50.7%)」、「50代(44.7%)」と続いており、最も低かったのは「30代(39.3%)」であった。

商店街の利用頻度（年齢別）

頻度 年齢	よく利用する			週に1回くらい	月に2～3回くらい	月に1回くらい	地元市町村内に商店街があるが、ほとんど利用しない	地元市町村内には商店街がない
	ほとんど毎日	週に2～3回	週に1回くらい					
30歳未満	51.2%	17.9%	33.3%	12.8%	7.7%	0.0%	28.2%	0.0%
30代	39.3%	13.8%	25.5%	12.0%	4.8%	5.1%	28.2%	10.6%
40代	39.7%	15.6%	24.1%	9.3%	5.7%	5.1%	28.6%	11.6%
50代	44.7%	18.7%	26.0%	10.3%	5.4%	5.4%	25.4%	8.9%
60代	50.7%	17.0%	33.7%	9.3%	7.7%	5.3%	19.0%	8.0%

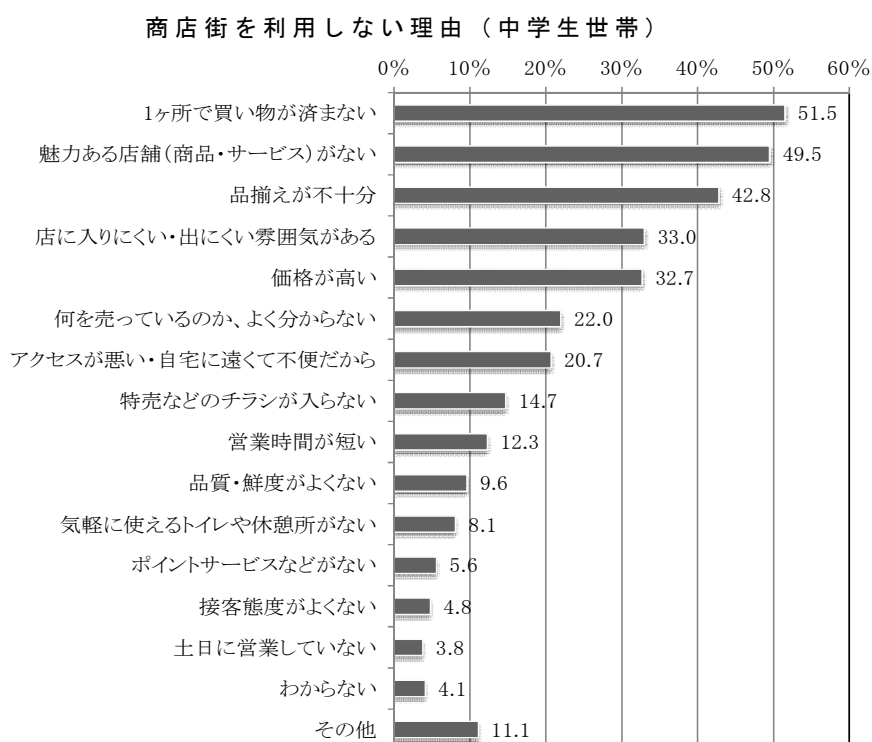
(2) 商店街を利用する理由

商店街を利用する理由をみると、「アクセスが良い・自宅に近い」が54.9%と最も多く、「価格が安い(37.0%)」、「商品の品質・鮮度が良い(26.9%)」が続いている。



(3) 商店街を利用しない理由

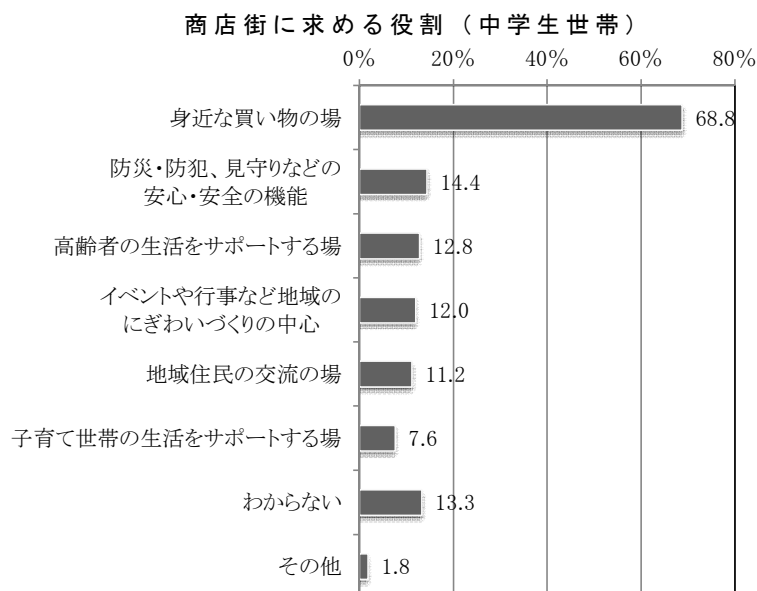
商店街を利用しない理由をみると、「1ヶ所で買い物が済まない」が51.5%と最も多く、次いで「魅力ある店舗(商品・サービス)がない(49.5%)」、「品揃えが不十分(42.8%)」となっている。



(4) 商店街に求める役割

ア 全体

商店街に求める役割をみると、「身近な買い物の場」が68.8%と多く、「防災・防犯、安心・安全の機能(14.4%)」、「高齢者の生活をサポート(12.8%)」が続いている。



イ ブロック別

商店街に求める役割をブロック別にみると、全体と同様に全てのブロックで「身近な買い物の場」が最も多く、それぞれ6割を超えている。

次いで、「千葉ブロック」や「印旛ブロック」などの6ブロックでは「防災・防犯、見守りなどの安心・安全の機能」となっており、「長生ブロック」、「夷隅ブロック」など千葉県南部の4ブロックでは「高齢者の生活をサポートする場」となっている。また、「海匝ブロック」では、「イベントや行事など地域のにぎわいづくりの中心」が続いている。

商店街に求める役割（ブロック別）

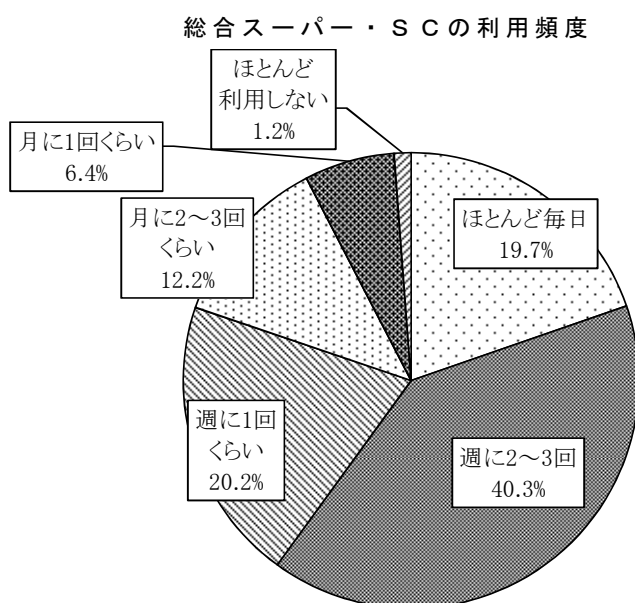
ブロック	身近な買い物の場	防災・安心・防犯・安全の見守りなどの機能	高齢者の生活をサポートする場	イベントや行事など地域の中心	地域住民の交流の場	子育て世帯の生活をサポートする場	わからない	その他
全体	68.8%	14.4%	12.8%	12.0%	11.2%	7.6%	13.3%	1.8%
千葉	69.6%	14.5%	12.3%	12.1%	12.0%	7.8%	13.4%	1.2%
印旛	71.1%	14.1%	11.5%	10.4%	11.2%	8.1%	12.7%	1.6%
葛南	70.0%	20.3%	9.3%	15.9%	10.4%	6.7%	10.6%	2.6%
東葛	73.4%	16.6%	11.1%	13.0%	11.6%	6.4%	10.7%	1.2%
香取	70.7%	12.8%	12.0%	9.5%	11.1%	8.2%	12.5%	2.1%
海匝	66.2%	13.9%	10.2%	14.8%	11.8%	7.1%	14.3%	2.4%
山武	66.5%	14.4%	14.1%	12.2%	9.2%	7.5%	14.8%	2.4%
長生	60.6%	15.0%	15.5%	13.7%	10.7%	8.3%	17.1%	1.7%
夷隅	69.3%	10.9%	14.5%	14.0%	11.9%	6.8%	13.0%	1.5%
安房	62.0%	12.9%	16.2%	10.0%	11.8%	7.7%	17.8%	2.0%
君津	74.6%	13.3%	14.7%	8.4%	11.4%	8.8%	9.2%	1.5%

(5) 総合スーパー・SC、コンビニエンスストア、通信販売の利用状況

ア 総合スーパー・SCの利用状況

中学生世帯の総合スーパー・ショッピングセンター（SC）の利用状況を見ると、「よく利用する（「ほとんど毎日」と「週に2～3回」の合計）」と回答した割合は60.0%となっており、「月に1回くらい」以上の利用の中では、「週に2～3回」の利用が最も多く、全体の40.3%となっている。

子供のいない世帯と比べると、「よく利用する」と回答した人は、中学生世帯の方が22.0ポイント高くなっている。



総合スーパー・SCの利用頻度（子供のいない世帯との比較）

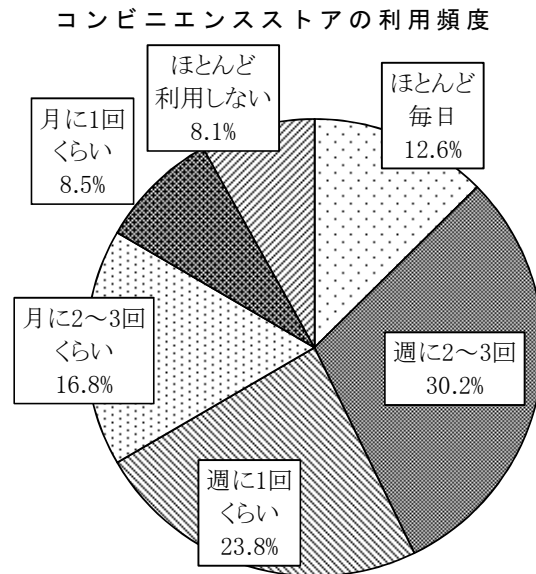
（単位：ポイント）

世帯	中学生世帯 (A)	子供のいない 世帯 (B)	差異 (A-B)
よく利用する	60.0%	38.0%	22.0
ほとんど毎日	19.7%	8.9%	10.8
週に2～3回	40.3%	29.1%	11.2
週に1回くらい	20.2%	26.8%	▲ 6.6
月に2～3回くらい	12.2%	15.3%	▲ 3.1
月に1回くらい	6.4%	14.2%	▲ 7.8
ほとんど利用しない	1.2%	5.8%	▲ 4.6

イ コンビニエンスストアの利用頻度

中学生世帯のコンビニエンスストアの利用頻度をみると、「よく利用する（「ほとんど毎日」と「週に2～3回」の合計）」と回答した割合は42.8%となっている。また、「月に1回くらい」以上の利用の中では、「週に2～3回」の利用が最も多く、全体の30.2%となっている。

子供のいない世帯と比べると、大きな差異はないが、「よく利用する」と回答した人は、中学生世帯の方が5.0ポイント多くなっている。



コンビニエンスストアの利用頻度（子供のいない世帯との比較）

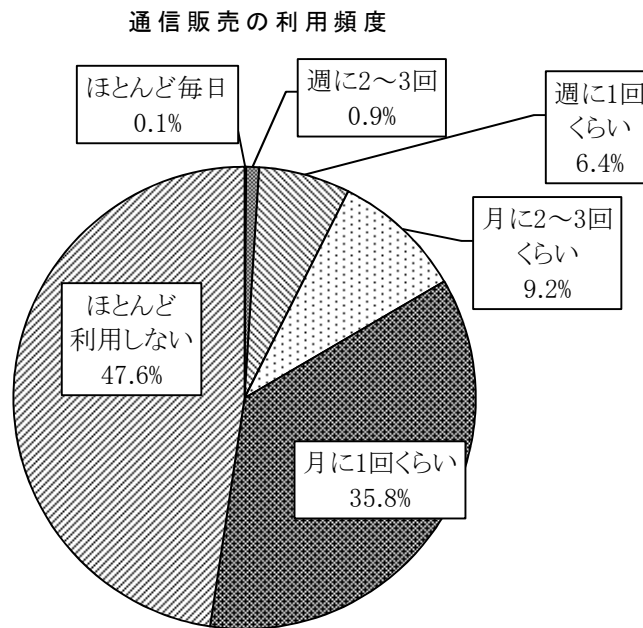
（単位：ポイント）

世帯	中学生世帯 (A)	子供のいない 世帯 (B)	差異 (A-B)
よく利用する	42.8%	37.8%	5.0
ほとんど毎日	12.6%	12.2%	0.4
週に2～3回	30.2%	25.6%	4.6
週に1回くらい	23.8%	22.9%	0.9
月に2～3回くらい	16.8%	14.4%	2.4
月に1回くらい	8.5%	13.9%	▲ 5.4
ほとんど利用しない	8.1%	11.0%	▲ 2.9

ウ 通信販売の利用頻度

中学生世帯の通信販売の利用頻度をみると、「よく利用する（「ほとんど毎日」と「週に2～3回」の合計）」は1.0%となっている。また、「月に1回くらい」以上の利用の中では、「月に1回くらい」の利用が最も多く、全体の35.8%となっている。

子供のいない世帯と比べると、「よく利用する」と回答した割合は、中学生世帯の方が2.4ポイント少なくなっている。また、利用頻度別にみて、最も差異が大きいのは「月に2～3回くらい」で、中学生世帯の方が15.4ポイント少なくなっている。



通信販売の利用頻度（子供のいない世帯との比較）

（単位：ポイント）

世帯	中学生世帯 (A)	子供のいない 世帯 (B)	差異 (A-B)
よく利用する	1.0%	3.4%	▲ 2.4
ほとんど毎日	0.1%	0.6%	▲ 0.5
週に2～3回	0.9%	2.8%	▲ 1.9
週に1回くらい	6.4%	9.4%	▲ 3.0
月に2～3回くらい	9.2%	24.6%	▲ 15.4
月に1回くらい	35.8%	39.8%	▲ 4.0
ほとんど利用しない	47.6%	22.9%	24.7

発行日 : 平成 25 年 3 月
調査・編集協力 : 株式会社ちばぎん総合研究所
千葉県千葉市稲毛区小仲台 2 丁目 3 番 12 号
編集・発行 : 千葉県商工労働部経営支援課
千葉県千葉市中央区市場町 1 番 1 号

